

# 西

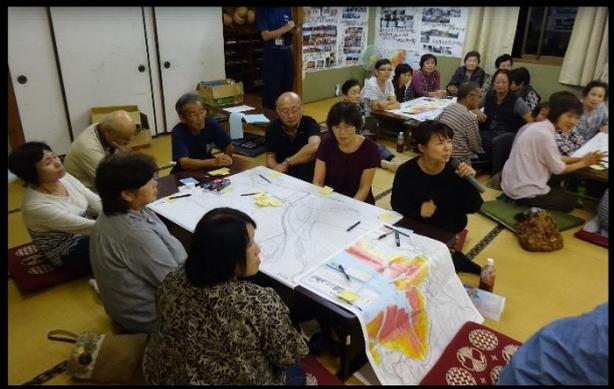
## 西黒部地区防災計画

～地震・津波避難編～

NISHIKUROBE

# 黒

# 部



平成31年2月  
西黒部まちづくり協議会

## 目次

序章.....	1
1 計画の対象地区の範囲.....	1
2 活動目標.....	2
3 地区の特性.....	3
4 地区の災害履歴及び想定される災害.....	4
5 平常時の活動.....	6
6 発災後の活動.....	8
7 津波避難時の経路と避難先.....	10
8 課題や問題点.....	14
9 今後の活動目標.....	16
参考 計画策定に向けての検討経過.....	17

## 改訂履歴

・平成31年2月 策定

## 序章

### 計画策定に至った背景

平成 29 年度に、松阪市津波避難対策基本方針が策定され、五主町、高須町、松名瀬町（それぞれ一部）が津波避難困難地域として抽出されました。

平成 30 年度には、『松阪市津波避難計画』を市が作成し、西黒部地区では『地区津波避難計画』の作成を目的として、様々なワークショップなどを実施してきました。

ワークショップでは、自助の重要性等を再確認し、避難経路を考え、課題抽出などを行い、地区内の住民が全員無事に避難できるよう検討し、その成果として平成 31 年 2 月に『西黒部地区防災計画～地震・津波避難編～』を作成しました。

## 1 計画の対象地区の範囲

計画の対象地区は松阪市のうち、「高須町」「西黒部町」「松名瀬町」からなる西黒部地区です。

図 対象地区の範囲



## 2 活動目標

活動目標は以下のとおりです。



住民の防災意識向上

⇒西黒部地区防災計画の概要版を各戸に配布するとともに、住民への理解を求める呼びかけを行います。



地震・津波の発生に備えた実行動の実施

⇒災害発生前の対策として、個人・家族ですること、西黒部地区ですことを確実に実施します。



## 4 地区の災害履歴及び想定される災害

### 4-1. 西黒部地区の災害履歴

#### 昭和 34 年 伊勢湾台風（9 月 26 日～27 日）

9 月 21 日にマリアナ諸島の東海上で発生した台風第 15 号は、中心気圧が 1 日に 91hPa 下がるなど猛烈に発達し、非常に広い暴風域を伴った。最盛期を過ぎた後もあまり衰えることなく北上し、26 日 18 時頃和歌山県潮岬の西に上陸した。

上陸後 6 時間余りで本州を縦断、富山市の東から日本海に進み、北陸、東北地方の日本海沿いを北上し、東北地方北部を通過して太平洋側に出た。

旧松阪市内の被害状況（松阪市史より）

人的被害 死者 3 人、重傷者 5 人、軽症者 21 人  
建物被害 全壊 163 戸、流出 6 戸、半壊 283 戸、  
床上浸水 769 戸、床下浸水 1,958 戸

#### 昭和 57 年 台風第 10 号と前線（8 月 1 日～3 日）

志摩半島の先端をかすめ、渥美半島西部に上陸。中部地方に大雨が降り、名松線的全線が土砂崩れのため不通となり、嬉野小原で民家 4 棟が土砂で押しつぶされた。そのあと南岸の前線と 9 号台風崩れの低気圧で再び大雨となり、南勢地方で住宅の浸水が相次ぎ、自衛隊の派遣要請をおこない、災害救助法も適用されました。

松阪市内の被害状況（松阪市地域防災計画より）

人的被害 死者 19 人、行方不明者 2 人、重傷者 8 人  
建物被害 全壊 38 戸、半壊 42 戸、浸水 3,965 戸

#### 平成 29 年 台風第 21 号（10 月 21 日）

非常に強い台風第 21 号は、21 日から 22 日にかけて日本の南を北上し、23 日 3 時頃、超大型・強い勢力で静岡県御前崎市付近に上陸しました。台風はその後、広い暴風域を伴ったまま北東に進み、23 日 15 時に北海道の東で温帯低気圧となりましたが、台風を取り巻く発達した雨雲や本州付近に停滞した前線の影響により、西日本から東日本、東北地方の広い範囲で記録的な大雨となりました。

三重河川国道事務所が設置している、櫛田川水系豊原雨量観測所では総雨量 485 mm（時間最大 50 mm/h）が観測され、櫛田川水系佐奈川では計画高水位を超過しました。

西黒部地区においては、各地で道路冠水や家屋の浸水被害が発生しました。

住家被害 床上浸水 17 戸、床下浸水 14 戸（松阪市災害対策本部発表資料より）

## 4-2. 想定される災害

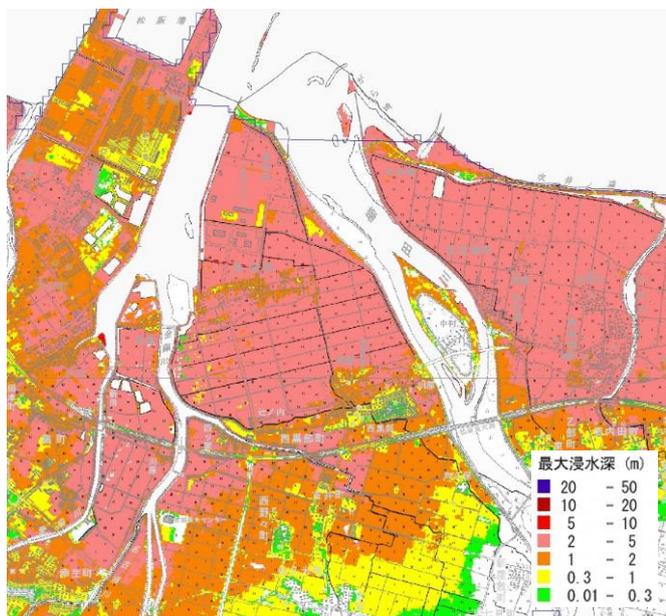
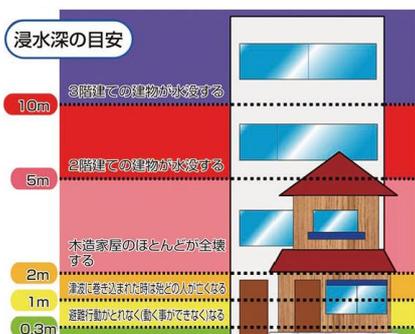
南海トラフでは、過去 100 年から 150 年の間隔で巨大地震が発生しており、今後もその発生が予測されていることから、南海トラフ地震を想定します。

### 津波浸水予測図

南海トラフの理論上最大クラスの地震を想定した場合にどの範囲まで浸水するかを、示した図です。

浸水の深さに応じて色分けしてあります。

西黒部地区においては、2～5mの最大浸水深が想定されています。



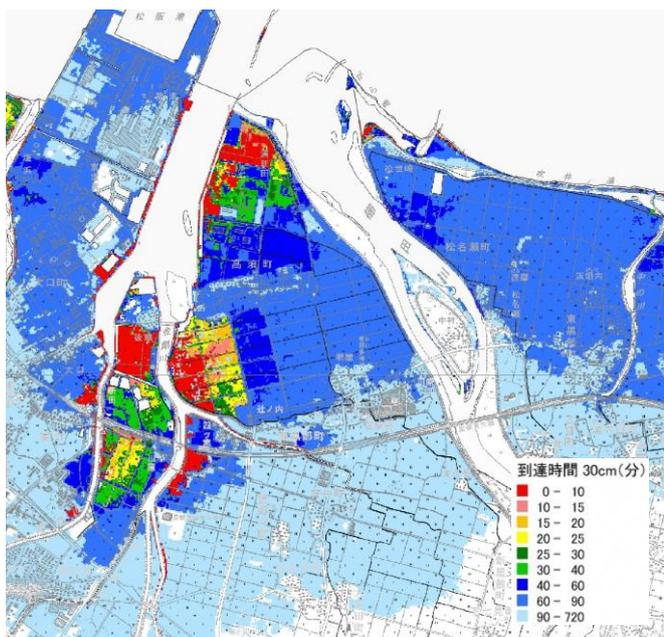
(引用：三重県地震被害想定調査結果（平成 26 年 3 月）)

### 津波浸水深 30cm 到達予測時間分布図

南海トラフの理論上最大クラスの地震を想定した場合に、避難行動を取れなくなる一つの目安とされている「浸水深 30cm」に、どの場所がどのくらいの時間で達するかを、その時間に応じて色分けした図です。

西黒部地区においては、概ね 40～60 分の想定がされています。

「いつまでに、どの方向に避難しなければいけないか」を判断するためのものです。



(引用：三重県地震被害想定調査結果（平成 26 年 3 月）)

## 5 平常時の活動

### 5-1. 個人・家族ですること

#### 南海トラフ地震を知る

⇒西黒部地区では、震度6強～7が想定されています。  
液状化の危険性も極めて高いです。  
津波は、最大津波高3.8m。最大浸水深2～5mです。



#### 住宅やブロック塀の耐震化、家具の転倒防止

⇒自宅の耐震化をしましょう。また、家具の転倒防止も実施しましょう。  
家や家具に潰されるだけでなく、避難経路が通れなくなるかもしれません。



#### 非常持ち出し袋を家族人数分準備

⇒家庭備蓄も重要ですが、まずは非常持ち出し袋を準備し、避難の備えをしましょう。

また、家族構成にあった持ち出し品を準備しましょう。

(例)：赤ちゃん・・・粉ミルクやオムツ  
薬を常用している人・・・お薬手帳のコピーや予備の薬など



#### 家族防災会議をする

⇒災害時の連絡手段や避難場所、避難経路などを話し合っておきましょう。

(例)：連絡手段として災害用伝言ダイヤル『171』の利用  
遠くの親戚に伝言板になってもらう



#### 近所付き合い

⇒顔の見えるお付き合いを日頃よりしておきましょう。

## 5-2. 西黒部地区ですること

### 防災意識の高揚

⇒西黒部地区が抱える自然災害のリスクを住民に知ってもらいます。

### 定期的にタウンウォッチングを実施

⇒災害発生時の危険箇所などをチェックし、避難経路を見直します。



### 津波避難訓練、防災訓練の実施（西黒部まちづくり協議会）

⇒避難経路、避難先、避難にかかる時間を再確認します。  
さらに、避難行動要支援者への対応を考え、訓練を実施します。



### 安否確認方法の確立と訓練の実施（各自治会）

⇒安否確認は、災害発生時に一番重要です。  
自治会でできることを考え、繰り返し訓練を実施します。

## 6 発災後の活動

### 6-1. 発災直後の活動

地震発生直後は、まずは自分自身の命を守らなければいけません。

地震による人的被害の多くは、揺れによる家具等の倒壊、落下物等による負傷です。身を守るためには、周囲をよく見る、落下物から離れる、低くなる、頭を守るのが効果的です。



(引用：効果的な防災訓練と防災啓発提国会議)

自主防災隊や消防団も被災者となります。

共助活動のためにも、自分や家族が負傷しないようにしましょう。



### 6-2. 発災後の個人・家族ですること

📌 家族の安否確認

⇒家族の安否確認だけでなく、となり近所の安否確認も忘れないようにしましょう。

📌 火の始末

⇒都市ガスやプロパンガスを使用している場合、震度5弱以上の揺れをガスメーターが感知すると、自動的に遮断されるため、慌てて火を止めに行かないでください。また、ろうそく等の裸火の場合火災発生のリスクが高いです。木造住宅が密集している地域のため、揺れがおさまったら必ず初期消火に努めてください。



避難する

⇒電気器具のスイッチを切り、コンセントを抜きましょう。  
（感震ブレーカーの設置などを考えてみてはいかがでしょうか。）  
電気のブレーカーやガスの元栓を切りましょう。  
非常持ち出し袋を持参しましょう。  
となり近所へも声をかけ避難しましょう。



津波からの避難

⇒より早く！より遠く！より高く！避難しましょう。

【津波避難の三原則】（岩手県釜石市の津波防災教育より）

1. 「想定にとらわれるな」
2. 「最善を尽くせ」
3. 「率先避難者たれ」



### 6-3. 発災後の西黒部地区ですること

---



安否確認

⇒自治会単位で安否確認を実施します。  
西黒部まちづくり協議会で安否情報を集約します。



避難の呼びかけ、避難誘導

⇒逃げ遅れをゼロにします。



避難行動要支援者への対応

⇒一人で避難できない人の介添えを実施します。



避難先での情報発信

⇒津波緊急一時避難ビル（学校など）で、避難者数を確認し、災害対策本部へ情報を伝えます。

## 7 津波避難時の経路と避難先

### 7-1. 高須町の避難

- ・津波発生時の緊急一時避難先は「松阪浄化センター」、「西黒部小学校」、「東部カントリーエレベーター」を想定します。
- ・後藤組については「丸亀ビル」「松阪商工会議所」「マンションエスポワール M」、「マンションエスポワール MⅡ」への避難も想定します。
- ・時間に余裕があれば、もっと南（内陸）へ避難します。
- ・主たる避難経路には、海岸沿いや河川沿いの道路も想定していますが、地震発生時には危険をとまなう可能性があります。そのため、実際の避難にあたっては、安全性を確認したうえで避難します。

### 7-2. 西黒部町の避難

- ・津波発生時の緊急一時避難先は「西黒部小学校」、「東部カントリーエレベーター」、「朝見小学校」を想定します。
- ・時間に余裕があれば、もっと南（内陸）へ避難します。
- ・南（内陸）へ避難する際の主たる避難経路は「松阪・多岐バイパス」「主要地方道松阪第2環状線」とします。

### 7-3. 松名瀬町の避難

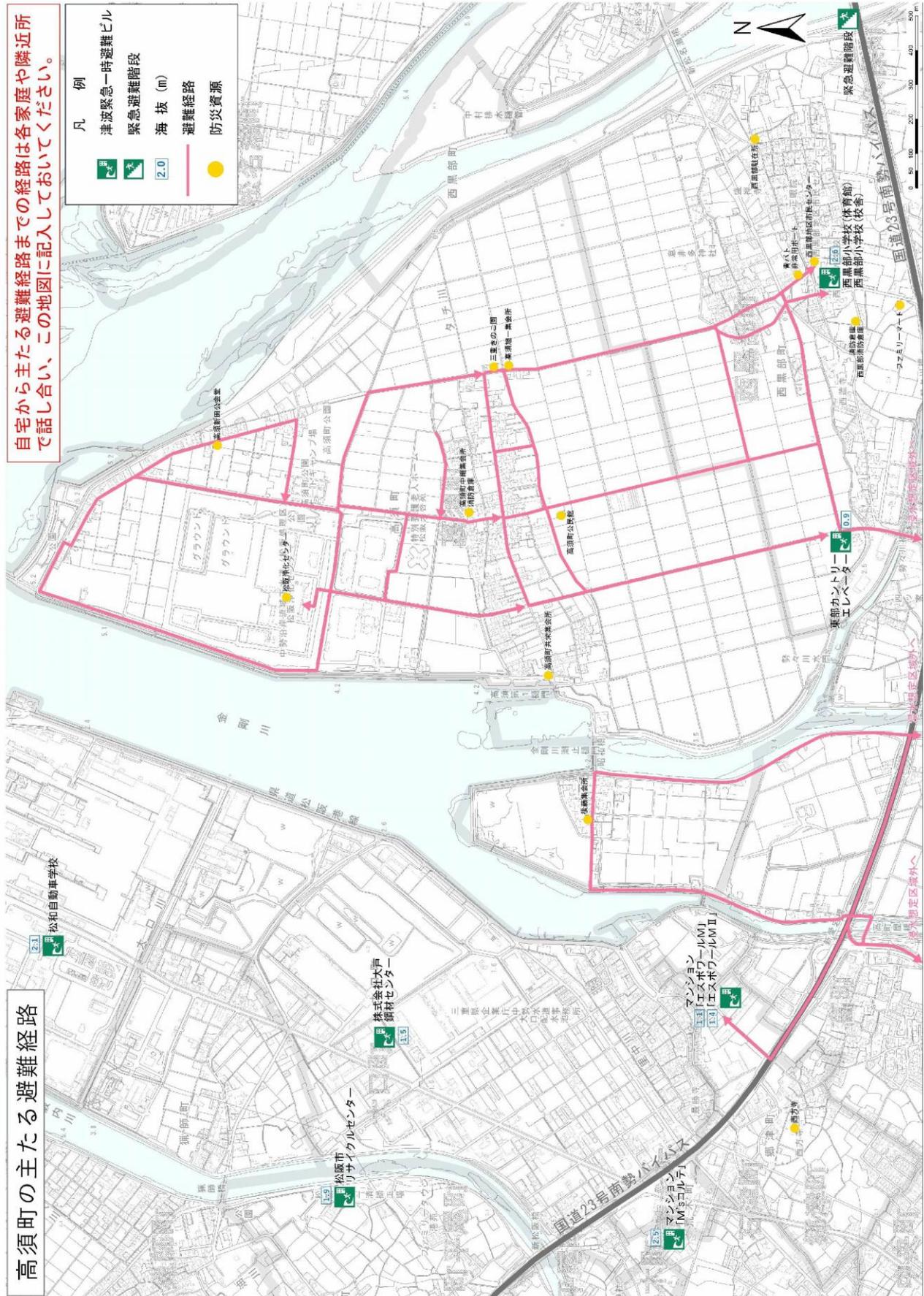
- ・津波発生時の緊急一時避難先は「医療法人まとかた（大西病院）」、国道23号南勢バイパスの「緊急避難階段」を想定します。
- ・主たる避難経路には、松名瀬橋や新松名瀬橋、河川沿いの道路も想定していますが、地震発生時には危険をとまなう可能性があります。そのため、実際の避難にあたっては、安全性を確認したうえで避難します。

高須町の主たる避難経路

自宅から主たる避難経路までの経路は各家庭や隣近所で話し合い、この地図に記入してください。

凡 例

- 津波緊急一時避難ビル
- 緊急避難階段
- 海抜 (m)
- 避難経路
- 防災資源

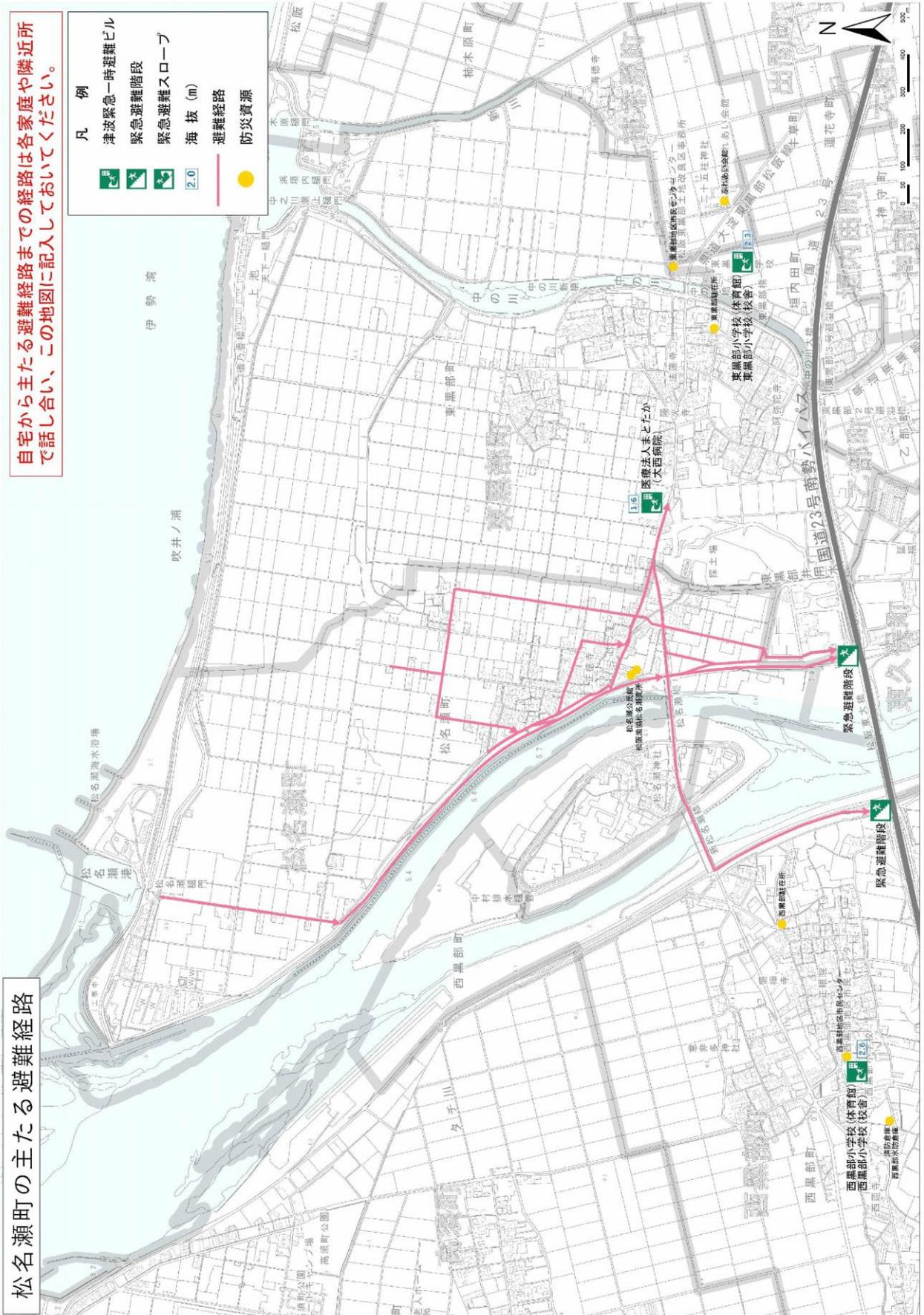




松名瀬町の主たる避難経路

自宅から主たる避難経路までの経路は各家庭や隣近所で話し合い、この地図に記入してください。

- 凡 例
-  津波緊急一時避難ビル
  -  緊急避難施設
  -  緊急避難スロープ
  -  海拔 (m)
  -  避難経路
  -  防災資源



## 8 課題や問題点

### ✓ 避難先が決まっていない

⇒自宅から津波時の緊急避難先が近いが、海側にある場合など避難先に迷われている方がみえました。また、落橋がなければ地区外への避難を想定されている方もみえました。被害の状況にもよりますが、複数の避難先や避難経路を決めておき、災害の状況により判断しましょう。

的確な判断ができるよう、日頃より避難経路や避難先の確認。避難訓練、防災訓練へ積極的に参加しましょう。

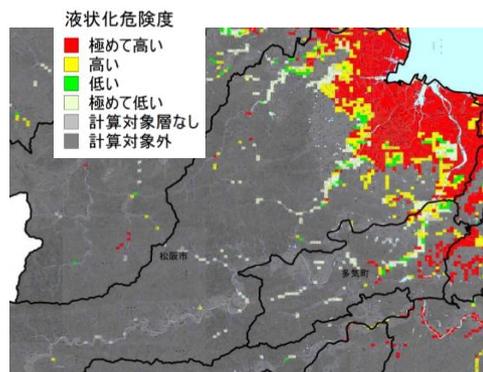
### ✓ 道路は割れていないか？液状化は大丈夫か？

⇒液状化については、三重県が液状化危険度予測分布図を公表しています。

着色部分（特に赤色部分）が全て液状化するとは限らないため、事前に避難経路を複数想定しておき、発災時の状況により避難経路を選択してください。

※様々な要因により、避難経路の損壊が想定されるため、事前の備えとして

- 複数の避難経路を考えておく
- 破損箇所を早く確認し伝達できる体制を作っておく



(引用：三重県地震被害想定調査結果（平成 26 年 3 月）)

### ✓ 避難する手段で迷う（自動車？自転車？）

ブロック塀が道路側に倒壊すれば通れない。

⇒車での避難を考えている方がみえました。

津波避難時に車を利用すると、家屋などの倒壊により、道路閉塞が発生し通行障害が予想されます。また、一斉に車避難した場合、渋滞で逃げ遅れることも予想されます。緊急車両の通行の妨げにもなるので、基本的に車両の使用は控えましょう。

地震によるブロック塀や電柱の倒壊も予想されます。避難の際、障害となる物が少ない避難経路を考えておくことも重要です。

- 自助：家屋の耐震化、ブロック塀の除却を行う。
- 共助：車避難は基本的に控え、近隣で声を掛け合い、早期避難に努める。

※避難行動要支援者への対応として、車いすやリヤカーでの避難も想定しておきましょう。

✓ 要支援者の避難誘導は ⇒ 消防団の対応

⇒発災時刻にもよります。

消防団員が在宅の場合、避難誘導や救出救助活動を期待できますが、不在の場合近隣での助け合いが必要不可欠になります。

- 日頃より、近隣での助け合いができるよう『顔の見えるお付き合い』をしておきましょう。
- 消防団においては津波発生時の退避ルールが決められているため、相互理解を深め二次被害防止のため、地域住民も同様に退避行動をとるようにしましょう。

## 9 今後の活動目標

本計画の策定に向けワークショップを実施し、多くの住民が参加しながらたくさんの意見を出し合い、地震・津波について考えてきました。しかし、まだ西黒部地区の全員に認知されたわけではありません。また、高齢者を連れての避難をどうするか？（避難行動要支援者への対応）といった課題も残されています。

### ●やるべきこと、できることを考える

【個人・各家庭】

①すぐできること→②少し頑張ればできること→③困難なこと

【地区・自治会】 ←

①すぐできること→②少し頑張ればできること→③困難なこと

【行政（市役所・県・国）】 ←

これからは、個人や家族、西黒部地区がそれぞれできることに対して、優先順位を持って取り組みます。それでも困難なことは市に協力を求めます。

それぞれの立場で、「できない理由を考えるのではなく、今のプロセスでできること」を考え、積み上げていきます。

### ●継続的な活動のスタート（PDCA サイクル）

課題はまだあり、まちの状況は変化していきます。

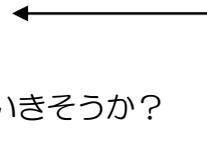
本計画策定を機に継続的な活動のスタートとして、PDCA サイクルをまわすことで、災害に強い西黒部を目指します。

Plan（計画）：避難計画をつくる。

Do（実施（訓練））：避難訓練を行う。

Check（検証）：訓練を行ってみて、うまくいきそうか？

Action（見直し）：問題点・修正点はないか。



見直して  
計画を書  
き直す

